

令和4年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(地理歴史)科目：(日本史B) 対象：(第2学年A組～E組)

科目担当者：(A～E組:渡邊⑩)

教科・科目の 指導目標	中学校で学んだ社会科の復習を本科目の中で随時取り入れ、基礎学力の定着を図る。その上で、主権者として必要な現代社会の成り立ち、現代の社会情勢への興味関心や知識・理解を深め、将来に向けた判断力をもった人間を育てる。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	歴史分野における基礎的な知識が不足していることが伺える。史資料の読み取りができていない、または読み取った情報を適切に表現することができない点が課題である。また、歴史分野における基礎的な知識が不足していることが伺える。	理解の基礎となる地理的知識の確認と定着を徹底させるとともに、授業では積極的にICTを活用し、多角的な視点で歴史を学ぶ。同時にアクティブラーニングを導入し、用語の詰め込みではなく、将来の判断力を養えるような知識の獲得を目指し、歴史的項目の論述ができるように指導する。	知識の徹底基礎となる地理的知識の獲得を徹底させていく。ICT機器を積極的に活用し、多角的(視覚聴覚等)に歴史に触れる機会をもつ。将来に向けた判断力を獲得するために、自分の意見を書く、情報をまとめる、歴史事項を評価するといった記述する項目を多く設ける。論述は書き方が分からない生徒が多いため、チャート式や書き方を提示するなど、スモールステップを設け、全員が無理なく書き上げられるように指導する。そのためにも生徒が主体的に学ぶ場として、学び合いの時間を確保する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			